

報道関係各位

展覧会開催のお知らせ

国立新美術館開館 15 周年記念

李禹煥

国立新美術館（東京・六本木）では、開館 15 周年を記念して 2022 年 8 月 10 日（水）より、日本の「もの派」を代表する作家として、国際的にも大きな注目を集めてきた現代美術家、李禹煥（リ・ウファン、1936 年生）の大規模な回顧展を開催します。



李禹煥、フランス、アングレームでの《Relatum - The Shadow of the Stars》設置作業、2021 年 Photo©Lee Ufan

韓国の慶尚南道に生まれ、ソウル大学入学後の 1956 年に来日した李は、その後、東京の日本大学で哲学を学び、東洋と西洋のさまざまな思想や文学を貪欲に吸収しました。そして、1960 年代から現代美術に関心を深め、60 年代後半に入って本格的に制作を開始しました。

視覚の不確かさを乗り越えようとした李は、自然や人工の素材を節制の姿勢で組み合わせ提示する「もの派」と呼ばれる動向を牽引しました。また、すべては相互関係のもとにあるという世界観を、視覚芸術だけでなく、著述においても展開しました。1969 年に美術出版社芸術評論賞で入賞した「事物から存在へ」などに示された深い思考は、「もの派」の理論的支柱にもなりました。

李の作品は、芸術をイメージや主題、意味の世界から解放し、ものどもの、ものと人との関係を問いかけます。それは、世界のすべてが共時的に存在し、相互に関連しあっていることの証なのです。奇しくも私たちは、新型コロナウイルスの脅威に晒され、人間中心主義の世界観に変更を迫られています。李の思想と実践は、未曾有の危機を脱するための啓示に満ちた導きでもあります。

近年の李は、ますます国際的に活躍し、グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ合衆国、2011 年）やポンピドゥー・センター・メッス（メッス、フランス、2019 年）など、世界の名だたる美術館で個展を開催してきました。一方、国内では、2010 年に香川県直島町に建築家、安藤忠雄の設計で李禹煥美術館が開館しましたが、国内の美術館の大規模な個展としては、2005 年の横浜美術館での「李禹煥 余白の芸術」展が最後となります。

こうした状況を受けた本展覧会は、東京では初めてとなる大規模な回顧展として開催されます。「もの派」にいたる前の視覚の問題を問う初期作品から、彫刻の概念を変えた「関係項」シリーズ、そして、静謐なリズムを奏でる精神性の高い絵画など、代表作が一堂に会します。また、李の創造の軌跡をたどる過去の作品とともに、新たな境地を示す新作も出品される予定です。

■展覧会概要

展覧会名 国立新美術館開館 15 周年記念
李禹煥

会 期 2022 年 8 月 10 日（水）～11 月 7 日（月）※毎週火曜日休館

開館時間 10:00～18:00（会期中の毎週金・土曜日は 20:00 まで）※入場は閉館の 30 分前まで

会 場 国立新美術館 企画展示室 1E

主 催 国立新美術館、朝日新聞社

協 力 SCAI THE BATHHOUSE

お問い合わせ 050-5541-8600（ハローダイヤル）

国立新美術館ホームページ https://www.nact.jp/exhibition_special/2022/leeufan/

※兵庫県立美術館へ巡回予定（2022 年 12 月初旬～2023 年 2 月）

報道関係のお問い合わせ先

国立新美術館 広報・国際室 〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

TEL: 03-6812-9925（平日 10:00～17:00） FAX: 03-3405-2532 Email: pr@nact.jp